

「保育」の原点

マザーテレサの遺言

文 葛西得男

Text by Tokuo Kasai

マザー・テレサは私が福祉の道を志すにあたり大きな影響を受け

た方で、恩師でもあります。マザーとはニューヨーク、ロスアンゼルス、サンフランシスコ、カルカッタなどでよくお目にかかりました。私の顔を見るといつも「遠いところからよく来たね」と微笑んで下さったもので、彼女の微笑みを見ることだけが旅の目的のようでした。

生前、最後にお目にかかったのはお亡くなりになる1カ月前のことでした。それはカルカッタのマザーの家でした。マザーは車椅子で出て来られたのですが、足はゾウのように腫れて本当に痛々しかった事を覚えています。

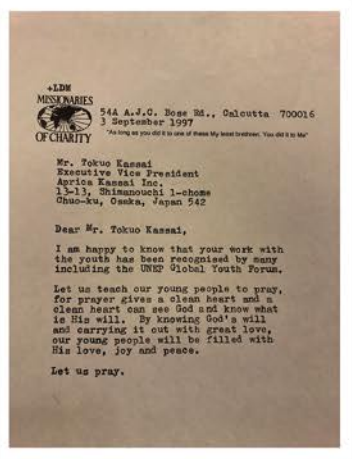
それにもかかわらず、又その優しい

微笑みを下さいました。その時に私が今度国連環境計画(UNEP)で小さな賞を頂戴する話をさせて頂いた時、マザーは大変喜んで「葛西さんに御祝いの手紙を差し上げる」と言っていました。

その手紙が来たのはマザーがお亡くなりになった後でした。お亡くなりになる3日前に口頭で秘書の方に指示されたそうです。秘書の方は「葛西さん、この手紙がマザー・テレサ最後の手紙ですよ」とも言っておられました。この手紙にはマザー・テレサのサインが入っていませんが、その時にはマザーにはサインをする力がもはや無かったという事も言っておられました。

次にお目にかかったのはマザー・テレサの国葬でした。

アメリカのクリントン大統領など世界のVIPが参列されていて、マザーの御遺体はまだ生きておられる様だったのを覚えています。御遺体は今もカルカッタのマザーの家の1階ホールの棺に御安置されています。



マザーの手紙



Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。
1975年に帰国後、アップリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人 松福会 理事長に就任。松福会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アップリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。アップリカ葛西 副社長時代に国連UNEP環境計画のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。

その前に立つと、今でもはつきりとマザーの声が聞こえて来る様な気がします。
「小さな事を大きな愛をもって行って下さい」
「もつといっぱい愛と心を込めなさい」
「もつとほほえみを」
これがマザーの遺言だと思っています。